

# 11・1労働者集会へ!

2015年10月30日  
No.334

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

## 武田君処分撤回裁判 第一回控訴審打ち抜く!

10月28日、前日の京都大学でのバリケードストライキ闘争の熱も冷めやらぬ中、武田雄飛丸君(法政大学文化連盟委員長)の「無期停学処分」撤回裁判第1回控訴審が開かれました。

裁判に先立って、武田君を先頭に東京高裁前で情宣を行いました。全学連4同志への「監禁致傷」デッチあげ粉碎に続く京大ストの報告に多くの支持と注目が寄せられました。

午後2時に東京高裁第1民事部・石井忠雄裁判長の下で開廷、最初に提出書面の確認が行われた後、武田君が意見陳述を行いました。9月の戦争法成立と闘う国会前の数十万人の決起、10.21国際反戦デー闘争や京大ストをはじめ職場・キャンパスでの労働者・学生の闘いを熱烈にアピール。続いて「処分を『静ひつな授業環境を守るため』と肯定した一審判決に象徴される矮小な大学観は、まさに安倍の要請に沿う戦争翼賛大学の在り方」だと喝



裁判所前で訴える武田君(10月28日)

破、06年からの法大闘争の背景を一切無視した一審反動判決を徹底弾劾しました。最後にゼネストで闘う韓国・民主労総の闘いに触れ、実力闘争の復権と11.1労働者集会への結集、東北大ストと法大自治会建設を訴えると法廷内からは拍手が起こりました。

続いて弁護団から控訴理由書の補充として、昭和女子大事件判例を持ち出して大学自治とりわけ学生自治を一切無視した一審判決への異議をあらためて主張しました。次回期日は、来年1月20日(水)午後2時30分からとなりました。

裁判後の報告会ではまず、控訴審1回目での「結審策動」をうち破った勝利が確認されました。その上で、法大側が答弁書の中で学生自治に言及していることに触れ、この間の戦争情勢に対する全国学生運動の前進を相手も無視できなくなってきたこと、ここを徹底的に追及して実力で敵を押し込んでいく裁判にしていくこと、そのために11.1集会と全国学生運動の爆発が決定的だという呼びかけが行われました。京大ストに続こう! 次回裁判までにもう一つも二つも情勢を塗り替え、武田君への処分を絶対に撤回させよう!(首都圏学生・1)



↑裁判終了後、弁護士会館で総括集会

# 処分撤回裁判第一回控訴審における武田雄飛丸君の意見陳述

東京高裁第1民事部 御中

意見陳述

2015年10月28日  
武田 雄飛丸

控訴審における私の意見を述べる。安倍政権によって9月19日に成立した戦争法は、平和安全法と国際平和支援法という正式名称とは裏腹に、侵略戦争の為の法であり、より具体的には朝鮮侵略を狙ったものだ。安倍は同法をめぐる国会審議において、昨年の7.1集団的自衛権行使容認＝解釈改憲の時と同じく、当初は「ホルムズ海峡の機雷掃海を想定」「米軍船舶に搭乗した邦人保護の為」等と述べていたが、追い詰められるにつれ、「朝鮮有事に必要」とあけすけに本音を語りだした。4月の日米新安保ガイドライン改定や、この間米韓が発表した北朝鮮への全面的先制攻撃を宣言した作戦計画5015も全て戦争法成立を前提にしている。いよいよ大恐慌と国際争闘戦の激化に追い詰められた安倍は、中国、北朝鮮の脅威を煽り、米韓と共に戦争によって自らの延命を図ろうとしている。

しかし安倍のこの戦争への突進は、戦争法成立に至るまでの一週間ほどの間に、国会前を連日10万人規模の人々が大学結集し、機動隊と激突しながら戦争法反対と安倍打倒を訴えるすさまじい怒りを呼び起こした。文化連盟と全学連はその最先頭で闘い、16日には6時間実力占拠した車道で国会突入と法大の学生自治会建設、京大、東北大でのストを訴え、圧倒的な支持を得た。戦争法成立後も、人民の怒りは止むことなく、上記のスト方針がますます求心力を増して、キャンパスに浸透していった。

これに恐怖した国家権力は9月28日と30日に全学連の中心的学生4名を5か月前の「監禁致傷」をでっち上げて不当逮捕した。被害者とされる元福島大生・樋口は、3年間にわたって全学連に潜り込み仲間の情報を金と引き換えに公安に売っていたスパイで、今年の5月に摘発、追放されていた。だが公安警察は自らのスパイ化工作を一定自己暴露してでもこの弾圧によってストライキ潰しと、過激派キャンペーンによる反戦運動の分断を狙ったのだ。京大、東北大、広大の自治会やサークル棟にも大学の開講日を待って、マスコミを動員した見せしめ目的のガサ入れ＝不当捜査が行われた。これは上記の「リベラル」を売りにする3大学が、この公安警察による弾圧を黙認、加担した事を意味する。自治会建設と大学ストライキ方針の正義性はいよいよ鮮明となった。文化連盟と全学連はこの未曾有の弾圧に対し、獄中で完熟非転向を貫く4名と連帯して、法政大学と東京地裁を軸に、全国のキャンパスで怒涛のような奪還運動を展開した。奪還署名は969筆も集まった。そして公安警察によるスパイ化工作という国家犯罪を、徹底的に追及することで寧ろ団結を強化、拡大し10月20日には全員の不起訴奪還を勝ち取ったのだ。

10月21日には奪還された仲間を迎え、飛び入りも多数勝ち取って国際反戦デー闘争が爆発した。法政大学はまたしても学生をデモに参加させないようキャンパスを封鎖し、戒厳体制を敷いた。「自由と進歩」を掲げながら、学生は一切の政治活動を抑圧する法政大学こそ戦争翼賛大学そのものだ。また10月27日には京大でストが打ち抜かれ、校舎がバリケードで封鎖された。京大当局はこれに対し、ストを通じて我々が主張する内容には一切触れられず、法大当局と同じく「業務妨害をやめろ」と繰り返すばかりの醜態をさらけ出した。この21世紀初の大学ストは新自由主義大学の中からも、学生が団結して立ち上がれば、大学を止められるという事を端的ながら示したのだ。

9月以降の文化連盟と全学連の闘いは、国会前のうねりをキャンパスに持ち帰り、国家権力の弾圧を打ち破りながら、ストライキと実力闘争の復権を勝ち取っていくものとしてあった。それはあたかも公正中立を装っている大学で、実際には軍事研究協力、文系、教員養成系科目の改廃、日の丸、君が代の強制が推進され、経済的徴兵制の導入が狙われている事、そしてその為にこそ、キャンパスにおける学生自治破壊であり、規制強化が行われている事を鋭角的に突き出した。

この過程で改めて06年以来の私への処分も含む、法政大学による学生運動弾圧が、公安と結託した国策として行われてきた事の本質も明らかになった。第一次安倍政権下で改憲が狙われる中、「改憲阻止」を訴える全学連の立て看を撤去した上、公安警察を学内に招き入れ、抗議デモを行った学生29名全員を逮捕させた事で始まった法大闘争。それは正に今日の情勢を先取りした大学の戦争動員との闘いだったのだ。

今や第二次安倍政権下で、法大当局はより一層その反動性を露わにし、学生運動弾圧に血道を上げている。田中優子総長や山口二郎などの有名教授がペテン的に安倍を批判してリベラル色を押し出す一方、新校舎建設にかこつけ学内規制はさらに強化され、キャンパスからは一切の政治活動の自由が奪われている。昨年5月に私を「暴行」ででっち上げ、公安警察に逮捕させた際も、私に「壊された」とされるビデオカメラは文化連盟と全学連の情宣活動を盗撮し、その映像を定期的に公安警察に提供する為のものであった事が公判で暴露された。

こうした法大当局であり、国家権力対闘う学生という構造の下で本裁判も行われている。したがってあたかも私への処分を私個人の素行や言動の問題であるかのように矮小化し、正当化する法大当局であり、裁判所の姿勢は根本的に間違っている。また私への処分を「静謐な授業環境を守るため」と肯定した一審判決に象徴される矮小な大学観は、正に安倍の要請に沿う戦争翼賛大学の在り方であり、「学生は黙って与えられたカリキュラムだけをこなせ」という事に他ならない。これはかつての産業報国会のスローガンである「黙って働き、笑って納税」が意味する内容と全く同じだ。学生を単位、就活、奨学金の三重苦に加え、学内規制で雁字搦めに縛りつけ、声ひとつ上げさせない事で維持されるキャンパス支配、これこそ「静謐な授業環境」の中身なのだ。戦後はじまって以来の大学の戦争動員が狙われる今日、こんなものは根本的に粉碎しなければならないと考える。法大闘争であり、10・27京大ストに示される実力の闘いこそ、その展望だ。

大恐慌の中、戦争と貧困の強制に突き進む自国政府を打倒すべく、全世界で労働者人民が巨大な闘いに立ち上がっている。とりわけトルコでは政府の黙認の下、反戦集会に白色テロがしかけられ膨大な犠牲者を生み出しながらも、労働者は不屈に闘い抜いている。韓国では民主労総が、執行部全員を指名手配され、天文学的な額の損害賠償を請求されながらもゼネストにむけ進撃している。こうした闘いと連帯し、国際的団結を形成する事、日本においても職場、キャンパスで当局、資本と非和解的に闘う労働運動と学生運動を爆発させることで、戦争は実際に止められる。動労千葉を先頭とする階級的労働運動潮流は、その為に11月1日の労働者総決起集会を呼びかけている。ここに未来の労働者である学生も何ともしても集まろう！！京大に続き、秋の東北大ストを爆発させ、法大で処分撤回と学生自治会の再建を勝ち取ろう！！その力で大学の戦争動員を粉碎し、安倍を打倒しよう！！

以上

## 【当面する行動方針】

### ● “民主労総ゼネスト連帯！” 10.31労働者国際連帯集会

10月31日(土)午後1時30分開会／ビデオ上映

場所：千葉商工会議所第1ホール(千葉中央ツインビル2号館14階)

主催：11.1全国労働者総決起集会実行委員会

### ● “闘う労働組合を甦らせよう！” 11・1全国労働者集会

11月1日(日)正午～ 東京・日比谷野外音楽堂にて(集会後に銀座デモ)

呼びかけ：全日建関西地区生コン支部／全国金属機械労組港合同／動労千葉／国鉄闘争全国運動